



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 剛性を有する容器本体 (3) と、可撓性を有するフィルムから袋状に形成され、且つ、複数の被収納物 (4) が収納された中袋 (2) とを備え、該中袋 (2) は容器本体 (3) 内に収納されると共に、中袋 (2) の一方側は容器本体 (3) に固定され、該中袋 (2) の他方の被収納物取り出し側には、被収納物 (4) を取り出すための取出口部 (2b) を閉塞するための再密封手段が設けられていることを特徴とする容器。

【請求項 2】 前記容器本体 (3) は、中袋 (2) の取出口部 (2b) を、容器本体 (3) 内に収納させる収納状態 (A) と、容器本体 (3) から突出させて被収納物 (4) が取り出せる取出状態 (B) とに変更自在に設けられている請求項 1 に記載の容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、粒ガムやサプリメント錠剤等の被収納物の携行に優れた容器に関する。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】 従来、粒ガム等の粒状菓子やサプリメント錠剤等の粒状の複数の被収納物は、インジェクション成型により成形された容器や、合成樹脂のシート成型により成形された容器や、スクリーキャップ付きボトルに直接収納されている場合が多い。

【0003】 しかしながら、前記それぞれの容器は、剛性を有している点において、被収納物を保護できるため好ましいが、各被収納物が自由に移動して直接容器に当接するため、該被収納物が衝撃で破損する欠点があった。また、各被収納物は容器内で、互いの当接による衝撃でも破損する場合もあった。特に、粒ガムやサプリメント錠剤は、容器に入れて携行する場合が多く、かかる場合には前記問題が顕著である。しかも、被収納物を、前記インジェクション成型やシート成型により成形された容器に直接収納するだけでは、密封性に劣るため、湿気等により品質が低下するおそれもあった。

【0004】 そこで、本発明は上記問題を解決すべく新たなもので、再密封可能にして密封性を向上させ、携行時等に、各被収納物が不用意に移動して破損することなく、且つ、被収納物の保護性に優れた容器を提供することを課題とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明は、上記課題を解決すべく新たなものであり、その特徴は、剛性を有する容器本体 3 と、可撓性を有するフィルムから袋状に形成され、且つ、複数の被収納物 4 が収納された中袋 2 とを備え、該中袋 2 は容器本体 3 内に収納されると共に、中袋 2 の一方側は容器本体 3 に固定され、該中袋 2 の他方の被収納物取り出し側には、被収納物 4 を取り出すた

めの取出口部を閉塞するための再密封手段が設けられていることにある。

【0006】 そして、中袋 2 は、可撓性を有するフィルムから構成されているため、被収納物 4 が多数個収納されている場合は無論、少なくとも中袋 2 は、被収納物 4 の個数に応じて変形して被収納物 4 に接触し、各被収納物 4 が自由に移動するのを拘束する。この結果、各被収納物 4 が容器本体 3 に直接接触することなく、また、各被収納物 4 同士の衝突を少なくでき、被収納物 4 が衝撃で破損するのを防止できる。

【0007】 また、容器本体 3 は剛性を有することから、各被収納物 4 を外部の衝撃等から保護することができる。また、再密封手段が設けられていることから、中袋 2 の開封後も、中袋 2 の密封状態を維持することが可能となる。尚、剛性を有する容器本体 3 とは、可撓性を有する中袋 2 よりも硬質の材質材料からなるものをいう。

【0008】

【発明の実施の形態】 以下、本発明の実施の形態について説明する。図 1 及び図 2 は本発明の第一実施の形態の容器を示す。1 はプラスチックシートを屈曲形成してなる容器本体としての剛性を有する外ケース 3 と、該外ケース 3 に収納される中袋 2 を備える容器である。尚、中袋 2 には、例えば多数の粒ガムやサプリメント錠剤等の粒状の被収納物 4 が収納されている。

【0009】 前記外ケース 3 は、例えば厚さ 0.15 ~ 0.5 mm 程度のポリプロピレン又はポリエチレンテレフタレート (APET) 等からなる一枚又は複数枚のプラスチックシートから形成されている。外ケース 3 は、前後壁部 5a、5b と、該前後壁部 5a、5b の両縁から屈曲線 (野線) 6 を介して屈曲された両側壁部 7 と、前記前後壁部 5a、5b の一端縁からそれぞれ野線 9a を介して接近する方向に傾斜する揺動部 8 と、それぞれの揺動部 8 の縁から野線 9b を介して延設され且つ前記中袋 2 の一方側 (一端部) 2a を挟持して固定する連結部 11 とを備えている。

【0010】 尚、前記両側壁部 7 の一端 (揺動部 8 側) 7a は、前後壁部 5a、5b の一端縁 (野線 9a) の位置よりも短くなっており、ここに、前後壁部 5a、5b の一端部には、互いに離間する方向に弾性変形可能な変形許容部 5c が形成されている。また、連結部 11 には吊り下げ用の係止孔 11a が形成されている。

【0011】 前記揺動部 8 の幅長 W1 は、前後壁部 5a、5b の幅長 W2 よりも小さく設定されている。また、揺動部 8 は、外ケース 3 の外側に突出して中袋 2 を収納する収納状態 A (図 2 (イ) 参照) と、外ケース 3 の内側に突出して中袋 2 の他方側を外ケース 3 から突出させて被収納物 4 が取り出せる取出状態 B (図 2 (ロ)) とに変更自在に設けられている。

【0012】 尚、中袋 2 の収納状態 A において、その中

袋 2 の他端側（被収納物 4 の取り出し側）は、外ケース 3 内に没入するようになっている。ここで、前記揺動部 8 及び連結部 11 により変更手段が構成されている。

【0013】外ケース 3 の他端は開口されており、その開口部 3 a を閉塞できるように、蓋部 10 が罫線 10 a を介して後壁部 5 b に屈曲自在に連結されている。なお、開口部 3 a を閉塞する蓋部 10 を接地させた場合に、外ケース 3 を自立させることが可能になっている。

【0014】中袋 2 は、例えばガスバリアー性を有する積層フィルム 13 a、13 b から袋状に形成されたもので、積層フィルムとしては、外側層として、延伸ポリエチレンテレフタレートフィルム、延伸ナイロンフィルム、延伸ポリプロピレン（OPP）フィルムが挙げられる。中間層として、ガスバリアー性を有するアルミ層または EVOH（エチレン-ビニルアルコール共重合体）層等からなるフィルム等を有し、内側層として、ヒートシール性を有する未延伸ポリプロピレン（CPP）またはポリエチレン系樹脂（LDPE 等）等のフィルムが挙げられる。また、防湿性のみが必要な場合は、OPP と CPP や LDPE 等の積層フィルムでも良い。更に、外側層に外ケース 3 との接着性を良くするコーティング等を施しても良い。

【0015】そして、前記フィルムの 4 辺はヒートシール等され、他方側には、両方のフィルムを密着状に封止できる再密封手段としての合成樹脂製の咬合具（チャック）12 a、12 b が、中袋 2 の内側で且つ幅方向全長にわたって設けられている。また、前記外ケース 3 の連結部 11 で中袋 2 の一端部 2 a を挟持固定する手段としては、超音波シール方法等の公知の手段が採用できる。

【0016】次に、前記容器の使用方法について説明する。まず、蓋部 10 を解放して、図 2（イ）に示す連結部 11 を摘んで押し込むと、収納状態 A にある両方の揺動部 8 は、前後壁部 5 a、5 b の変形許容部 5 c を弾性変形させて押し上げると共に適度に湾曲するため、罫線 9 a を支点にして揺動し、図 2（ロ）に示す如く、揺動部 8 を取出状態 B に容易に位置変更させることができる。かかる揺動部 8 の位置変更により、中袋 2 の全体を外ケース 3 の開口部 3 a 側に押し出すこととなり、中袋 2 の他端部は、外ケース 3 の開口部 3 a から突出する。

【0017】そして、その中袋 2 の突出部で且つチャック 12 a、12 b よりも外側を切断して開封し、チャック 12 a、12 b の係合を解除することにより、中袋 2 の突出部分を取出口部 2 b として開口させ、所望個数の被収納物 4 を容易に取り出すことができる。

【0018】前記中袋 2 を収納する場合には、チャック 12 a、12 b を係合させて密着状態にした後に、前記とは反対に連結部 11 を引っ張ると、取出状態 B にある揺動部 8 は、元の収納状態 A に復元する。そのときに中袋 2 も内側に移動することとなり、その取出口部が外ケース 3 内に完全に没入して収納される。

【0019】以上のように、第一実施の形態の容器は、中袋 2 の開封後も、チャック 12 a、12 b を係合させることにより、取出口部 2 b を密着して閉塞することができると共に、中袋 2 はガスバリアー性等を有していることから、密封性に優れ、被収納物 4 が酸素や湿気により、品質が低下するのを防止できる。

【0020】また、剛性を有する外ケース 3 により、中袋 2 及び中袋 2 内の被収納物 4 を保護できる。しかも、被収納物 4 は可撓性を有する中袋 2 に収納されていることから、中袋 2 は被収納物 4 に両側から接触するため、被収納物 4 の個数とは無関係に、各被収納物 4 が不用意に移動し難くなり、被収納物 4 が互いに衝突したり、外ケース 3 に当接したりして被収納物 4 が破損するのを防止できる。

【0021】図 3 及び図 4 は本発明の第二実施の形態を示す。本実施の形態は、容器本体としての外ケース 3 が合成紙等の厚紙類から形成され、底壁部 14 に前記中袋 2 の一端部 2 a が固定されている。中袋 2 のシート片 13 a、13 b は、外ケース 3 の内面に固着されており、自由に変形して被収納物 4 を保持しているのは、前記第一実施の形態と同様である。

【0022】蓋部 10 は前壁部 5 a から長く延設され、該蓋部 10 を屈曲させることにより、例えば、後壁部 5 b の半分以上を被覆できるようになっている。そして、蓋部 10 に設けられた係止凸部 15 が、後壁部 5 b に形成された切り込み 16 に係合可能になっている。

【0023】前記中袋 2 の他端部は、取出口部 2 b として外ケース 3 から突出しているが、蓋部 10 の係止凸部 15 を後壁部 5 b の切り込み 16 に係合させた際には、取出口部 2 b を屈曲させ、蓋部 10 で折り畳んで被覆することができる（収納状態 A）。係止凸部 15 は、蓋部 10 に切り込み線 20 を形成すると共に、蓋部 10 の先端に罫線 18 を介して折り返し片 19 を内側に屈曲させることにより、突出形成することができる。また、蓋部 10 の両側には、罫線 21 を介して内側に屈曲されるサイド片 22 がそれぞれ形成されている。

【0024】尚、前記取出口部 2 a には、前記チャック 12 a、12 b が設けられている。また、両側部 7 はガセット折りされ、断面形状が三角形状を呈している。

【0025】本実施の形態では、蓋部 10 を解放すると中袋 2 の取出口部 2 b を露出させた取出状態 B とすることができる（図 4（ロ）参照）。しかも、蓋部 10 は、長く設けていることから、その取出状態時に、平坦な受け部 25 を形成することができ、中袋 2 から取り出した被収納物 4 を、該受け部 25 に一旦取り出して載置することができる。しかも、折返片 19 及びサイド片 22 が三方から上方に立ち上がった状態となることから、受け部 25 上の被収納物 4 が、不用意に転げ落ちたり、滑り落ちたりするのを防止できる。

【0026】図 5 は、本発明の第三実施の形態を示す。

